

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成26年5月15日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日)

【会社名】 株式会社ユニバーサル園芸社

【英訳名】 UNIVERSAL ENGEISHA CO. , LTD

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 森坂 拓実

【本店の所在の場所】 大阪府茨木市大字佐保193番地の2

【電話番号】 072-649-2266 (代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画室長 安部 豪

【最寄りの連絡場所】 大阪府茨木市大字佐保193番地の2

【電話番号】 072-649-2266 (代表)

【事務連絡者氏名】 経営企画室長 安部 豪

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日	自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日	自 平成24年7月1日 至 平成25年6月30日
売上高 (千円)	2,496,049	2,833,869	3,436,577
経常利益 (千円)	466,487	474,080	603,286
四半期(当期)純利益 (千円)	263,299	283,543	359,381
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	265,876	283,527	363,123
純資産額 (千円)	4,614,836	4,781,964	4,558,634
総資産額 (千円)	5,443,487	5,569,146	5,283,430
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	209.59	236.05	287.28
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	84.8	85.9	86.3

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日	自 平成26年1月1日 至 平成26年3月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	65.08	67.09

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間の我が国経済は、金融緩和や景気対策を受けて企業の景況感が改善を続ける中、消費税増税による駆け込み需要が景気を押し上げ、足元の景気は回復しつつあります。

このような状況のもと、当第3四半期連結累計期間における売上高は2,833,869千円（前年同四半期比13.5%増）、営業利益は443,852千円（同2.6%増）、経常利益は474,080千円（同1.6%増）となった結果、四半期純利益は283,543千円（同7.7%増）となりました。

各セグメントの業績は次のとおりであります。

なお、各セグメントの業績数値につきましては、セグメント間の内部取引高を含めて表示していません。

〔グリーン事業〕

グリーン事業のうち関東エリアにつきましては、引き続き企業の景況感の改善を受け、大型案件の受注等により増収増益となりました。関西エリアにつきましては、前連結会計年度より株式会社花守花の座を新たに連結の範囲に加えたことや、新店舗出店等により増収となりましたが、初期投資の経費増加等に伴い減益となりました。海外エリアにつきましては、契約の増加等により増収増益となりました。

以上の結果、グリーン事業の売上高は2,384,725千円（前年同四半期比11.9%増）、営業利益は416,139千円（同2.9%増）となりました。売上高営業利益率は、関東エリアは18.7%（前年同四半期17.8%）、関西エリアは16.7%（同20.9%）となりました。

〔卸売事業〕

卸売事業につきましては、前連結会計年度においてネクステージ株式会社からエクステリア用石材等の卸売事業を譲り受けたこと等により増収増益となりました。

以上の結果、卸売事業の売上高は310,225千円（前年同四半期比21.3%増）、営業利益は17,252千円（同14.8%増）となりました。

〔ネット通販事業〕

ネット通販事業につきましては、キャンペーン商品の拡充や事業所移転等の経費節減等を推し進め、売上及び利益の確保に努めて参りましたが、減収減益となりました。

以上の結果、ネット通販事業の売上高は16,782千円（前年同四半期比29.2%減）、営業損失が6,942千円（前年同四半期は6,811千円の営業損失）となりました。なお、ネット通販事業は、「母の日」の属する第4四半期に売上と営業利益が偏重する傾向があります。

〔造園事業〕

造園事業につきましては、壁面緑化や公共工事等の大型案件の増加に伴い増収増益となりました。

以上の結果、造園事業の売上高は150,943千円（前年同四半期比39.8%増）、営業利益は5,026千円（同6.7%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末における総資産は5,569,146千円となり、前連結会計年度末に比べて285,716千円の増加（5.4%増）となりました。

このうち流動資産は2,585,504千円となり、前連結会計年度末に比べて23,234千円の減少（0.9%減）となりました。これは主に、有価証券が100,042千円、受取手形及び売掛金が32,270千円増加したものの、現金及び預金が168,045千円減少したこと等によるものであります。

また、固定資産は2,983,642千円となり、前連結会計年度末に比べて308,950千円の増加（11.6%増）となりました。これは主に、投資有価証券が319,452千円増加したこと等によるものであります。

(負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は787,182千円となり、前連結会計年度末に比べて62,386千円の増加（8.6%増）となりました。これは主に、買掛金が46,990千円増加したこと等によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は4,781,964千円となり、前連結会計年度末に比べて223,330千円の増加（4.9%増）となりました。これは主に、四半期純利益を283,543千円計上する一方で、配当金の60,062千円の支払等により、利益剰余金が223,480千円増加したこと等によるものであります。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について、重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	4,000,000
計	4,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成26年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成26年5月15日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	1,256,250	1,256,250	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株で あります。
計	1,256,250	1,256,250	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成26年1月1日～ 平成26年3月31日	—	1,256,250	—	172,770	—	122,488

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容の確認ができないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年12月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	(自己保有株式) 普通株式 55,000	—	—
完全議決権株式（その他）	普通株式 1,200,400	12,004	—
単元未満株式	普通株式 850	—	—
発行済株式総数	1,256,250	—	—
総株主の議決権	—	12,004	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式48株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成25年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対す る所有株式 数の割合 (%)
(自己保有株式) 株ユニバーサル園芸社	大阪府茨木市大字佐保193番地の2	55,000	—	55,000	4.38
計	—	55,000	—	55,000	4.38

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成26年1月1日から平成26年3月31日）及び第3四半期連結累計期間（平成25年7月1日から平成26年3月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,878,643	1,710,597
受取手形及び売掛金	464,982	497,252
有価証券	100,137	200,180
商品及び製品	102,031	130,941
仕掛品	1,244	152
原材料及び貯蔵品	6,265	6,917
その他	58,786	48,400
貸倒引当金	△3,353	△8,938
流動資産合計	2,608,738	2,585,504
固定資産		
有形固定資産		
土地	795,824	795,824
その他	928,377	956,299
減価償却累計額	△691,009	△715,709
その他（純額）	237,367	240,589
有形固定資産合計	1,033,191	1,036,413
無形固定資産		
のれん	75,996	64,333
その他	49,233	40,162
無形固定資産合計	125,230	104,495
投資その他の資産		
投資有価証券	606,523	925,976
繰延税金資産	145,854	145,781
投資不動産	506,735	506,735
減価償却累計額	△78,120	△84,206
投資不動産（純額）	428,614	422,529
その他	342,768	357,420
貸倒引当金	△7,492	△8,974
投資その他の資産合計	1,516,269	1,842,732
固定資産合計	2,674,691	2,983,642
資産合計	5,283,430	5,569,146

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年6月30日)	当第3四半期連結会計期間 (平成26年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	92,164	139,155
未払法人税等	84,482	100,307
賞与引当金	2,377	29,997
その他	148,065	114,589
流動負債合計	327,089	384,049
固定負債		
退職給付引当金	145,892	153,250
長期未払金	209,160	208,621
その他	42,653	41,260
固定負債合計	397,706	403,132
負債合計	724,796	787,182
純資産の部		
株主資本		
資本金	172,770	172,770
資本剰余金	122,488	122,488
利益剰余金	4,415,183	4,638,664
自己株式	△153,450	△153,585
株主資本合計	4,556,992	4,780,338
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	501	176
為替換算調整勘定	1,141	1,450
その他の包括利益累計額合計	1,642	1,626
純資産合計	4,558,634	4,781,964
負債純資産合計	5,283,430	5,569,146

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
売上高	2,496,049	2,833,869
売上原価	979,364	1,136,048
売上総利益	1,516,685	1,697,820
販売費及び一般管理費	1,084,177	1,253,968
営業利益	432,507	443,852
営業外収益		
受取利息	14,393	8,497
受取配当金	221	229
投資不動産賃貸料	33,754	35,324
デリバティブ評価益	4,376	—
その他	4,426	5,873
営業外収益合計	57,171	49,925
営業外費用		
支払利息	327	—
不動産賃貸原価	14,403	15,001
為替差損	7,165	2,431
その他	1,296	2,265
営業外費用合計	23,192	19,697
経常利益	466,487	474,080
税金等調整前四半期純利益	466,487	474,080
法人税等	203,187	190,536
少数株主損益調整前四半期純利益	263,299	283,543
四半期純利益	263,299	283,543

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年7月1日 至平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年7月1日 至平成26年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	263,299	283,543
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	518	△324
為替換算調整勘定	2,058	309
その他の包括利益合計	2,576	△15
四半期包括利益	265,876	283,527
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	265,876	283,527
少数株主に係る四半期包括利益	—	—

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
(税金費用の計算) 当連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
減価償却費	33,574千円	39,863千円
のれんの償却額	10,177千円	15,949千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年9月27日 定時株主総会	普通株式	62,812	50.00	平成24年6月30日	平成24年9月28日	利益剰余金

2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年9月28日 定時株主総会	普通株式	60,062	50.00	平成25年6月30日	平成25年9月30日	利益剰余金

- 2 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの
該当事項はありません。
- 3 株主資本の著しい変動
該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間（自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	グリーン事業				卸売事業	ネット通 販事業	造園事業			
	関東 エリア	関西 エリア	海外 エリア	小計						
売上高										
外部顧客への売上高	1,058,326	1,039,912	31,421	2,129,661	238,519	20,753	107,115	2,496,049	—	2,496,049
セグメント間の内部売上高又は振替高	51	902	—	954	17,134	2,934	853	21,877	△21,877	—
計	1,058,378	1,040,815	31,421	2,130,615	255,654	23,688	107,969	2,517,927	△21,877	2,496,049
セグメント利益又は損失(△)	188,431	217,386	△1,437	404,379	15,027	△6,811	4,713	417,308	15,199	432,507

(注) 1 セグメント利益（営業利益）の調整額15,199千円は、各セグメントの事務所使用料の内部振替分等でありませぬ。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

グリーン事業セグメントにおいて、株式会社花守花の座の全株式を取得し連結子会社としたことにより、のれんが増加しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、44,037千円であります。

卸売事業セグメントにおいて、ネクステージ株式会社よりエクステリア用石材等の卸売事業を譲受けたことにより、のれんが増加しております。

なお、当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間において、33,142千円であります。

II 当第3四半期連結累計期間（自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日）

1 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント							合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	グリーン事業				卸売事業	ネット通 販事業	造園事業			
	関東 エリア	関西 エリア	海外 エリア	小計						
売上高										
外部顧客への売上高	1,173,992	1,165,371	44,192	2,383,556	284,095	15,611	150,606	2,833,869	—	2,833,869
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	1,169	—	1,169	26,130	1,170	336	28,807	△28,807	—
計	1,173,992	1,166,541	44,192	2,384,725	310,225	16,782	150,943	2,862,677	△28,807	2,833,869
セグメント利益又は損失(△)	219,556	195,086	1,496	416,139	17,252	△6,942	5,026	431,476	12,375	443,852

(注) 1 セグメント利益（営業利益）の調整額12,375千円は、各セグメントの事務所使用料の内部振替分等でありませ

ず。
2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

重要な減損損失又はのれんはありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成24年7月1日 至 平成25年3月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成25年7月1日 至 平成26年3月31日)
1株当たり四半期純利益金額	209円59銭	236円05銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	263,299	283,543
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	263,299	283,543
普通株式の期中平均株式数(株)	1,256,250	1,201,210

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年 5月14日

株式会社ユニバーサル園芸社

取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 土 居 正 明 印指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 三 宅 潔 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ユニバーサル園芸社の平成25年7月1日から平成26年6月30日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成26年1月1日から平成26年3月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成25年7月1日から平成26年3月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ユニバーサル園芸社及び連結子会社の平成26年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。
以上

- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。